

25. 酸性雨等森林衰退モニタリング事業

(国庫委託事業)

新井一司

[目的]

林野庁では、酸性雨等による森林への被害状況を把握するため、1990年度から1999年度まで10ヶ年にわたって全国1200ヶ所の地点の森林を対象にモニタリング調査を実施した。2000年度からは、この追跡調査として第3期モニタリング調査が継続して行われている。現地調査等は、国からの委託により各県が分担することとなっており、東京都では今年度、1ヶ所が該当している。なお、本事業は国庫委託事業であり、今年度調査したデータの解析・公表については林野庁が行うものとされている。

[方法]

林野庁 研究普及課および独立行政法人 森林総合研究所が定めた『森林衰退状況調査実施マニュアル 通常調査編』に基づいて行った。調査地は、図-1に示した五日市の1地点である。調査地点は、スギ人工林であり、5年前と10年前に調査が実施された地点である。調査地の概況を図-2に示す。

各調査地において、概況調査を行うとともに、0.1haの円形プロットを設置し、毎木調査(樹高1.3m以上の樹木の樹高と胸高直径の測定、ha当たり本数などの算出を行った。さらに植生調査(樹高1.3m以下の樹木、草本、シダ植物の植物名とその優占度)、衰退度調査(目視による評価と10年前と同じ位置からの写真撮影)、土壌のサンプリングなどを行った。

[結果]

以上の測定項目についてマニュアルの様式に従って取りまとめ、2003年度の報告書として林野庁へ提出した。

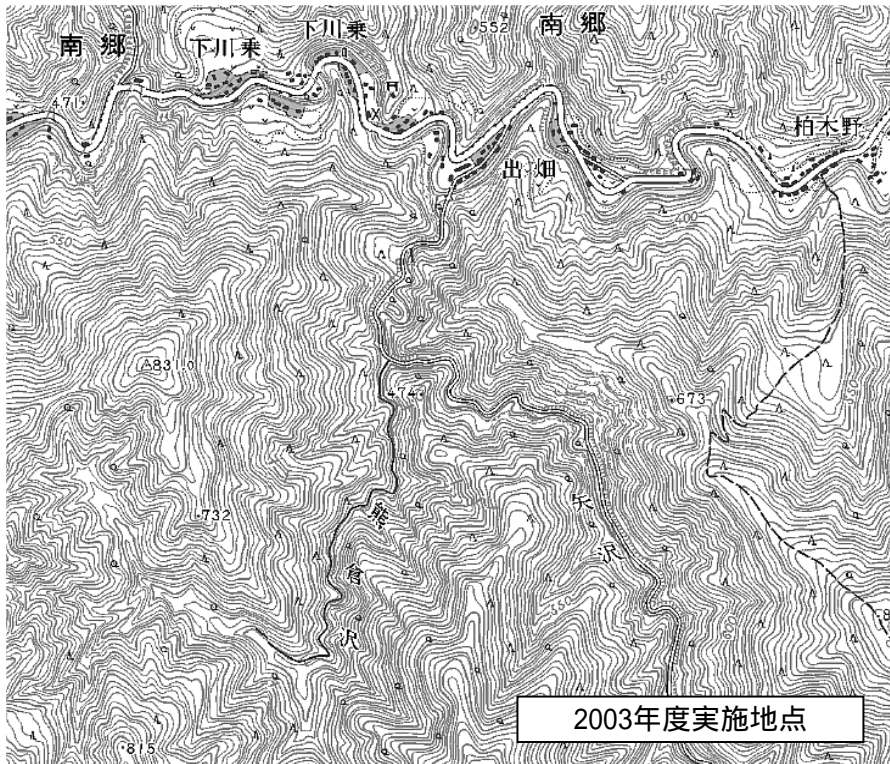


図 - 1 モニタリング調査地点 (図幅名:五日市)



図 - 2 調査地点の概況